

2020年

ジァス  
**JIAS日本国際美術家協会 機関紙** Vol.45  
 Japan International Artists Society



## JIASは世界をリードする国際美術家集団を目指します

第21回日本・フランス現代美術世界展速報	P2
JIAS2019年度総会報告	P3
JIAS新会員、2020年NEPU代表作家	P4
JIAS会員紹介～合縁奇縁～	P5
国際作家探訪記 アトリエ訪問	P6
日本・フランス現代美術世界展・報告	P8
欧米国際公募 フィンランド美術賞展・報告	P10
パリ国際サロン・ドローイング・報告	P12
ル・サロン/サロン・ドトゥヌ 2019・報告	P14
インフォメーション お知らせ	P16

JIAS 主催展 第 21 回 日本・フランス現代美術世界展

2020

さらに新たな一步を踏み出します

会場が 2 倍に！ (3A+3B 展示室にて開催)

これまでに加え、幅広い視野をもって種別・部門を拡充！

国際展ならではの。海外作家新作最大 100 点まで増幅！

展示会場を増やし、新設部門や応募種別の拡充など、これまでの皆様からのお声も参考にさせていただき、国内外に発信する上でも重要なコンテンツと考え新たに検討いたしました。

今回の件は、国立新美術館の発声に端を発するものではありませんが、この新たな挑戦が今後の本展ならびに JIAS 協会が進むべく道筋の一端となる事と信じ、会員の皆様には積極的にご参加いただきたいと思っております。

東京オリンピックが開催される記念すべき 2020 年、JIAS 主催「日本・フランス現代美術世界展」展覧会のみならず JIAS 協会にとっても、また新たな一步を踏み出すことができる大変良い機会に恵まれたと、期待に胸が膨らみます。

JIAS 日本国際美術家協会

代表

島村 平

第 21 回 日本・フランス現代美術世界展

日程： 2020 年 8 月 5 日 (水)～16 日 (日)

会場： 国立新美術館 3A・3B 展示室

展示： 海外作品 約 100 点、国内作品 400 点 程度

申込締切 2020 年 5 月 11 日 (月)



## 年に一度、作家同士が顔を合わす絶好の機会

去る2019年8月7日、2019年度JIAS日本国際美術家協会（以下、JIAS）総会のため、JIAS会員35名が集った。

本年総会の議長に船田春光女史、副議長に別府忠雄氏が拍手をもって選出、承認された。「JIAS機関紙」編集人坂本龍彦氏より、「機関紙は形だけでなく、会の活動内容を象徴するものであるべき。今後も本紙同様に進めていきたい」と報告された。事務局からの2018年の活動と会計報告、2019年の活動予定は拍手を持って承認された。初めて総会に出席した会員の自己紹介に次いで、出席者による意見交換がなされた。



議長を務めた船田春光女史



馬郡まりこ 欧州美術クラブ会長、馬郡文平 JIAS日本国際美術家協会代表



副議長 別府忠雄氏、JIAS機関紙編集人 坂本龍彦氏によるJIAS紙の制作報告

## 作家の、作家による、作家のための美術家協会

「作品下のキャプション表記が小さい」という意見に対し、馬郡代表・事務局より、創立者の『作品を観て欲しい』という想いが継がれており、他展や他公募団体のようなサイズに拡大する必要はないと感じている。作品を観ただけで誰の作品かわかるから、フランスの名だたるサロン、公募展などはもっと小さい。我々もそのようにありたいと願う。が、もう少し大きくするなど、今後も検討していくと回答。ある古参会員は、亡くなった創立者の馬郡俊文氏は作品の構図（例えば黄金分割）やサインに対しても非常に厳しかった。『サインなどなくても自身の作品だとわかるように』とよく激励された事に触れた。また、昨今の働き方改革の影響からか絵画を運んでくれる宅配業者が減少。搬入出で苦労しているという話題には様々な意見交換がなされたが、優良業者の特定は困難。各自が様々なコネクションやノウハウを駆使し、苦戦しながら搬入している事がわかった。その他、海外展現地協賛イベントへの要望やインターネットを活用した広報の有効性、その他、自身の現状報告などが述べられた。最後に、議長・副議長より、JIASは「会友」「理事」などの隔たりがなく、会費も一律で公平。全会員が同等に出品し、同じ場で様々な意見が言える作家のためのフラットな会であると今日の会でさらに実感した。作家として生きる以上、日常にもさまざまな困難があるが、作品を生み出し発表する場がある事を励みに活動できている。毎年この日は、会員同士で顔をあわせ、作品も拝見でき、人物像も知り得る貴重な1日なので、有効活用してほしい。ただ、総会の出欠連絡が未連絡の方が多し事は大変残念。会員である以上、出欠の意思表示は不可欠と総括。本会の活動より活性化される事を願い、本年も拍手をもって終了した。



会員同士、自己紹介や意見交換を経て交流を深めた



Report

会員レポート 「2019年度 JIAS総会に参加して」

JIAS会員レポート



2019総会は35名が参加、忌憚のない意見が活発に質疑・討論が行われた。近年ニューヨークを拠点に芸術のダイバーシティのニュースは刺激を受けた。JIASの作品は見るものに熱い思いをさせる。学ぶことが多い。自己の作品確認にもなる。時代の変化を見据え、新たな表現に挑戦し続けたい。そんな思いが会議でも事務局から熱い思いとして伝えられ、全国の多数の会員への心配りが伺えた。

JIAS会員 吉岡 徹

2020年度JIAS新入会員

国際派として日本芸術を世界へ発信するアーティストの架け橋となるべく活動を続ける JIAS。2020年度は26名が入会されました。JIASのさらなる追い風になるよう期待が持たれます。

ようこそ JIAS へ

東京都	安藤 愛実	東京都	K. Rino	神奈川県	成田 雅子
神奈川県	淡路 りえ子	東京都	木庭 慶子	長野県	大西 英子
北海道	楓月 まなみ	静岡県	小林 景秀	福岡県	太田 映花
神奈川県	HIRO	埼玉県	工藤 秀子	大阪府	塩江 義宏
埼玉県	井口 直也	香川県	日下 康孝	東京都	鈴木 絢子
福岡県	池田 正昭	岩手県	米谷 易寿子	鳥取県	田中 昭雄
兵庫県	井本 雅夫	長野県	丸山 浩明	神奈川県	梅崎 このみ
東京都	石井 恵美子	東京都	三橋 直之	岐阜県	横山 弥生
静岡県	岩本 依子	奈良県	宮西 孝二郎		全26名

事務局からのお願い

- ・2020年度JIAS総会は現時点で20年8月13日(木)開催の予定です。東京オリンピックに伴い、例年と開催時期が異なります。詳細は追ってご連絡いたします。
- ・現地の展覧会へ参加した感想や、展覧会の感想などございましたら、お気軽に機関紙編集部へお寄せください。
- ・事務局からの回答必須のお知らせに関して、未連絡の方が多くおられます。また、総会は一定数の委任なき場合、開催に影響を及ぼす場合があります。出欠などは必ずご返信くださいますよう、今一度お願い申し上げます。
- ・近年、種別の拡充、関係業社との兼ね合い等もあり、出品規約の大幅な見直しが入っており、改正・変更も多くございます。慣れている方も不慣れな方も、今一度ご出品前に規約をご確認いただきたく、お願い申し上げます(搬入期間、搬入場所、種別、額装、申込方法等)。



2020年NEPU代表作家

Les représentants UKIYO-É 2020



阿万 孝司



河瀬 陽子



小野 功夫



瀬野 清



渡部 昇

2019年度にJIAS/欧州美術クラブが主催し、新エコールドパリ浮世・絵美術家協会(NEPU)が協賛した関係展覧会にて選出された代表作家は《その年を代表する公認作家》として翌1年間、国内外の国際展にて広報・展示される。

- ・第52回クローチア美術賞展
- ・第21回日本・フランス現代美術世界展

ホームページにてインタビューも掲載

## JIAS 会員紹介 ～合縁奇縁～

## 大山 芳園

OHYAMA Hoehn 山形県

まるで壮大なエネルギーが表現されているような堂々たる書作品。繊細で巧みなピンク色のレイヤーの使いわけ。抑制されながらも作品の底に力強い動きの存在を感じる。

～ジャン・マリ・ザッキ～



風 墨象

## -Message-



書を始めまして、大字や前衛書に興味を持ち、書いてまいりました。墨の黒と、和紙の白の間には、無限のやりとりがあります。又、一瞬の書線に思いを込め、偶然の出会いにも、おもしろさを感じております。又、この頃には、新しく、「いろ」との出会いで、墨象に引き込まれ、「自然」という芸術家に思いを馳せながら筆をとる日々です。

## 熊谷 睦男

KUMAGAI Mutsuo 岩手県

舞を披露する老女は、まるで神々に人類が担う苦しみの慰謝を求め、運命を画策しているかのようだ。モチーフは洗練され、今日においてもなお永遠の概念を持つ祖先からの伝統を引き継ごうとする意志も伝わってくる。

～パトリス・ド・ラ・ペリエール～



延年の舞・老女(鎮魂19-3) 油彩

## -Message-



平安の昔から伝承されている平泉世界文化遺産毛越寺「延年の舞・老女」の古からの日本固有の神秘性に魅せられて描き続けています。特に2011.3.11東日本大震災の津波で故郷陸前高田市が壊滅し、多くの市民と共に親族、友人達、知人達が犠牲になりました。その犠牲者の御霊が老女の舞に託されて極楽浄土へと誘われ成仏されるように鎮魂を祈願して制作しています。JIASの皆様のご支援に感謝しています。

## 野町 佐代

NOMACHI Sayo 高知県

NOMACHI Sayo は神秘に溢れた作品を私たちに提示する。表現力を中心に据えた見事な構成力である！

～ジャン・マリ・ザッキ～

Pilgrimage No.16  
-Taisanji in November- アクリル

## -Message-



1999年11月、私は東京で初めての個展を開催させて頂きました。その会場に欧米の関係者も足を運んで下さった様です。明けて2000年ドイツ美術賞展の参加要請の書類が届き、参加したのが欧州美術クラブとのお縁の始まりです。日本の歴史、文化、風土性を油絵具の表現力に助けられながら制作し、世界発信してきました。この趣旨は今後も変わらないと思います。

## 運天 一恵

UNTEN Kazue 沖縄県

現在と過去の夢を同時に満たす作品。見事に表現されている美しい感覚。心より祝福を贈りたい。ブラボー！

～ジャン・マリ・ザッキ～

天地賛歌  
～舞楽用天星の川を渡る～  
染色・絹布(ちりめん)

## -Message-



令和元年は第5回ギリシャ美術賞展への初出品から40年の節目を迎えました。人生の大半を斬新で魅力あふれるJIAS/欧米の企画によって育ててもらい感謝します。馬郡前代表と事務局の方々の情熱に感動した事が、後日沖縄へ帰ってから制作を続けるエネルギーとなりました。現在の会員に知り合いは少なくなりましたが、若い会員の方々の活躍が素晴らしいです。常に新鮮な企画に向かって創作が続けられることが大きな喜びであり意義であることを信じています。

## 青山 繁

AOYAMA Shigeru 福井県

よく知られた彼の好むテーマ「鯉」。キャンパスの中で動きを与え、命を感じさせることに秀でている。美しい色、特に美しい揺れ。偉大な作家。

～ジャン・マリ・ザッキ～



にぎやかな波 油彩

## -Message-



いかに本物に近づかかということを念頭に置いて制作しています。穏やかな波や魚がくねったときに、達波が荒く揺れた感じを追求していきたいと思います。若い頃働いていたホテルで、魚をさばいたり、休みの時に水族館で魚を観察したり、南の島の旅行で海中の写真撮ったり。池できれいな魚を見つけ、それが後で錦鯉とわかり毎日池に足を運び観察したりしました。錦鯉を描くきっかけです。

## 畠山 法子

HATAYAMA Noriko 広島県

見事な抽象的構成力。美しい色の調和。きわめてオリジナルな画風。われわれをひきつけてやまない魅力的な作家、HATAYAMA Noriko。

～ジャン・マリ・ザッキ～



希望 アクリル

## -Message-



描いた作品は自分の心の中を見る鏡のようなもの。そして描く事は、自分の中にある宝物を探す作業。日々の生活の中での体験を通して感じた想いを、思いがけない色や形に表現出来た時は、この上ない喜びです。気がかかった新たな自分に出会うために、楽しんで描いていきたいと思っています。

# 国際作家探訪記

エリナ・フォルステイ

第51回フィンランド美術賞展  
現地協賛イベント「アトリエ訪問」  
2019.5.30

今回の海外展現地協賛イベントでお世話になった、フランス老舗サロン「サロン・ドトーヌ」で絵師ルフォール・ティエリ氏。それぞれのア



**木**を活かした建築を得意とするフィンランドの建築家が設計したというアトリエ。壁一面の大きなガラス窓からは、まるで屋外かと思うほどの太陽光が射しこみ、青く広大な空と、どこまでも深い緑が目に映える。2つの天窓を指さしながら、「アートにとって自然光は不可欠。3つの窓から射す、北側からの陽光が制作時の作品を程よく照らしてくれる。ただひとつ、あまりの景観のすばらしさに、大窓を正しい北位置から少しずらさざるを得なかった！」とフォルステイ女史は微笑みながら、アトリエならではの設計裏話を披露してくれた。

彼女のアトリエはアラヤルヴィ市の中心地より少し離れた農村地帯にある。どこまで続くか分からない程広がる畑にポツン、ポツンと穀物庫が点在する。



「芸術とは、日々の生活であり、人生すべてだと

思っている」と彼女は言う。だからこそ、ヘルシンキで芸術を学んだ後、生まれ育った故郷に戻り住み、共存する風景や建物、空気そのものを描き続けている。「田舎でも移り変わりはある。その移り変わりを、例えば、現存していた穀物庫が朽ち果てるまでの様をとし、観る人が自身の感性で何かを感じ取り、自由に解釈できるような作品を描きたい。」と彼女は語った。前述のとおり、彼女のモチーフは暮らしの中に存在する。なので、描きたい対象はすぐに決まるという。それを色彩で表現するには、いつ、どのように捉えるか。どんな配色、彩色になるのか。彼女の作品制作はカラースキームを考えることから始まる。主に油絵具を使うが、小作品などはアクリルや水彩絵具などを用いる。屋外で描く事もある。小作品1点に3~4時間かけるというが、色彩や場景の変化にあわせ、時間、季節、天候などを変え、同じ対象物を何度も何度も描く。場景の変化をまるで写真のように場面、場面で切りとり、描く。異なる時の異なる場景を描くことで、また違う角度から対象を捉えることができる。その違いを色彩で表現することを楽しんでいると語る彼女は、自らをそう呼ぶように、まさに色彩の専門家であり、研究者なのだ。



作品制作とは「色彩の研究」

「夏と冬とでは色の使い方が変わる。夏は、黄、緑、他にも鮮やかな色が自然の中に溢れている。一方、冬は真っ暗な時間が増えるので、色のバリエーションがなくなってしまう。でも、そういう時こそ、明るい色を使いたくなる。「色」は楽しさや嬉しさといった感情の表現手段にもなるのだから。」

素晴らしいアトリエに  
ため息が出ちゃう……



エリナ・フォルステイ ELINA FÖRSTI 画家



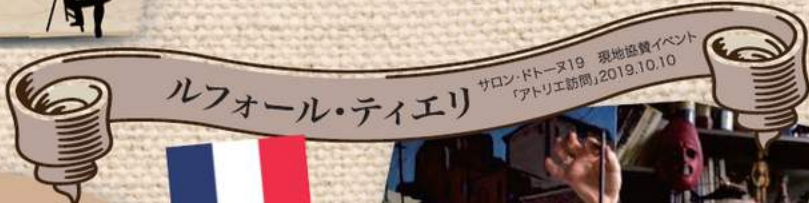
1971年エヴィヤルヴィ生まれ  
1994年ヘルシンキ芸術デザイン大学にてドローイングと絵画を学ぶ  
1998年ヘルシンキ芸術デザイン大学にてグラフィックアートを研究  
2008-2013 ヌヴァスキュラ大学にて美術教育を学ぶ  
現在アラヤルヴィ在住



# アトリエ訪問 レポート



フィンランドで活躍の画家フォルスティ・エリナ女史と、前部門プレジデントのひとりとして活躍する画家ルフォール・ティエリ氏のアトリエ訪問時の様子とともにご紹介します。



**祖** 父は画家、主に19世紀絵画のコレクター

だった父、ヴェネツィア音楽団チェロ奏者の叔父など、芸術家系に生まれ育ったルフォール氏は、幼少の頃から絵画に興味をもち、12歳からデッサンを学び始める。若くして父を亡くしたのを機に哲学や宗教学を学ぶ。中でも仏教の輪廻転生の概念に興味を抱き、25歳の時に初めて中国を訪れた。時すでに画家になることは決めていたが、初めて訪れた異国の地でチェンという僧侶に出会い、チェン僧侶が嗜む「書」と、「書」に取り組む様に、画家としての道を歩むことを改めて決断したという。

彼は、工場や廃墟など、人々の暮らしの中に存在しながらも一般的に美しいと認識されていないものをテーマとし、モチーフとして描く。

時間がある時は対象物を探しているいろいろな場所を歩き回ったりもする。決まった場所を訪れることもあれば、急に興味がわき、引き寄せられるように道端で描くこともある。つまりは描きたいものを描く。本能が工場や廃墟を選ぶには、何か理由があるのか尋ねてみた。すると「美しいものは放っておいても美しいから。」と、その端正な顔立ちどおりの返事が戻ってきた。



フランス

美しいものは放っておいても美しい



「ナビ派やフォービズムといったポスト印象主義の潮流は好み。私自身もかなりの影響を受けた。私の師、ルジュン・フィリップ氏はナビ派を率いたドニ・モーリス氏の弟子だった。」と続け、「作品制作において、「コンポジション」と「フレーミング」の2つのポイントに重きをおいている。無論、独自の色彩を混ぜ込みはするけれど。」と真剣な眼差しを向けた。彼は現在、小さな美術教室を主宰し、生徒とともに国内外へ研修旅行に出かける。アメリカでは3ヶ月の長期研修も行った。パリのアトリエではポートレートやヌードのデッサンを集中的に描くレッスンもする。画家とは違う顔もち、少林寺拳法は7段の有段者。過去には10年間、教えていたこともある。「アートとは全く異なるジャンルのもを平行して学ぶことは、たいへん意義のあること。必ず深奥でつながり、共通点を見出すことができる。」と、格闘技の簡素で直感的な素早い動作が自身の画法に、大きな影響を与えたと語った。

最後に、同志である日本作家の皆様へのメッセージを預かった。「自身の本能に従い、時に主観的、時に客観的に目前のテーマを描いて欲しい。時間をつくり、対象物をよく観察する。フィルターをかけず、できる限りのあるがままを描くことが重要である。」

ティエリ氏による  
人気のエコール!

ルフォール・ティエリ L'EFORT Thierry

サロン・ドトーマヌ 絵画セクション  
プレジデント兼会員



1967年生まれ。12歳から絵画に興味を持ち始める  
中国でひとりの書道家と出会い、画家になることを決意  
8年間フィリップ・ルジュンヌに師事し具象芸術の道にすすむ  
今日、パリ近郊複数のアトリエで教室を開く  
\*ル・サロン「テラー財団賞」2011年  
\*ル・サロン「フランス風景賞」2014年ほか受賞多数



2018サロン・ドトーマヌの会場にて

第21回日本・フランス現代美術世界展にも出品予定!



# 第20回記念 日本・フランス現代美術世界展 ~サロン・ドートゥヌ特別協賛~(2019) 展覧会報告



(左より) サロン・ドートゥヌ評議会役員兼抽象画部門長ルグラン・ドニ氏、サロン・ドートゥヌ画家で奥様のコンス エラ女史、サロン・ドートゥヌパートナー 映像プロデューサー バスカル・モレ氏、サロン・ドートゥヌ会長シルヴィ・ケクラン女史、協賛各社の首様

## 今や、国際作家からも注目を集める日本における世界展

順路にそって、着物や立体、手工芸、水墨、軸装書など日本の伝統・美を魅せる32作品に出迎えられ、フランスサロン界を担う重鎮作家、サロン・ドートゥヌ作家はじめ多国籍作家らによる計81点が多種多様なモチーフ、テクニック、色彩美を展開。その奥には独創的かつバラエティーに富む活きた日本現代アート217点が異彩を放ち、計276名298点が一丸となり唯一無二の展覧会として個性を彩った。特別協賛先サロン・ドートゥヌシルヴィ・ケクラン会長、JIAS/欧米代表馬郡文平が挨拶にたち、作家代表の乾杯発声で賑々しく開宴。

一同は熱い芸術家交流を果たした。日本作家との交流を楽しみにしていたと顔をほころばず海外作家からは「実に力のある展示作品。ここには心が存在している」「観るたびに作品レベルの向上を感じる」など賛辞をいただいた。記録的な猛暑、スコールなど今や日本の夏の風物詩ともいわれる天候に見舞われながらも会場には500~1000人超/日が来場。会期を通し動員数は約8,000人を記録、記念すべき20回目を数える本展は大盛況のなか惜しまれつつ幕を閉じた。



展示会場入口壁一面に掲げた朱赤が印象的な本展フラッグ前は、国内のみならず海外から訪れた来観者らの人気フォトスポットと化し、毎年楽しみにしているという多くの愛好家からもお声がけいただいた



挨拶をするサロン・ドートゥヌ会長シルヴィ・ケクラン女史



講堂にて開催されたレセプションには日本、フランス共に多くの作家が参加した



### 第21回 日本・フランス現代美術世界展 2020年

オリンピックイヤーの2020年!会場2倍に拡張し、これまでの主要種別に加え、ノンジャンル、ノンテーマで多種多様な作品を受付ます

■会期:2020年8月5日(水)~16日(日)

初出品歓迎。どなたでもご応募いただけます





## TOPICS&gt;&gt; 多彩なイベントを通して日本にしながら国際交流が実現

20年JIAS協催[クアアチア美術賞展]  
開催市副市長よりメッセージ動画も

都合で来日叶わなかった現地関係者に代わり、『クアアチア共和国ドゥブロヴニク市の歴史と美術』と題し、欧米スタッフが視察時の撮影写真や映像にて、中世がほぼ現存する街並みや人々の暮らしぶりを紹介。ドゥブロヴニク市副市長イェルカ・テプシッチ女史より日本作家へのメッセージ動画も披露された。

## 自身の入賞作品画像を前に、前年度展覧会入賞者らに授与



毎年、国内外の展覧会関係者がプレゼンターを務める表彰式。国内外の展覧会関係者がプレゼンターを務め、華やかな功績を称えた。表彰者（主に前年度関係展受賞者）ひとりひとりには、壇上にて、自身の作品画像を前に賞状や副賞が授与された。

## 100名程の希望者と真摯に向き合い、熱心に寸評が贈られた



講評者にケ克蘭会長と馬郡 JIAS 代表、サロン・ドトーヌ パートナー 映像プロデューサー バスカル・モレ氏とサロン・ドトーヌ評議会役員兼抽象画部門長ルグラン・ドニ氏を迎え、作品を前に作家ひとりひとりに熱い寸評が贈られた。「今後の励みとなった」「新たな課題を見つけることができた」「制作の糧となった」「大変感銘を受けた」など実直な感想が寄せられた。

## Report 第20回 日本・フランス現代美術世界展とオープニングイベントに参加して

JIAS会員レポート

毎年新しい方が展覧会に参加されている、去っていった方もおられる中、会員数は増えていると思う。それだけこの会に魅力がある。いくつか目に止まる作品に出会うと、表現者としてワクワクし、もっと精進しなければと深く感じる。レセプションではフランスの作家の方にお会いし、もっとおしゃべりがしたいと思ったが、残念ながら言葉が通じない。現代美術とは？さまざまな作品が出品されていて色々考えさせられるいつも何かを考えている。過去・現在・未来の世界観を

JIAS会員 宝閑 和子



六本木・国立新美術館で第20回記念展！初回展以後、開催地の返還を体験した者にとって覚醒の感を覚える。本館を確保、定着させるに至るまで事務局各位のご苦労を思うと察するに余りある。心より謝意を表したい。自己を振り返れば、歳を重ねる度にシンプルスローに。搬入等は締切直前が常となってしまったが、送り出した後は安堵する。反面、虚無感がおそろ。しばしそのからっぽの無のじまの中に。と、無は無にあらず！すべて！有も生む！等々云々の風が。我に返る。同時にまた送り出す物を！てな気が…。ともあれ、よくぞ越して六本木の地で！ピバ！欧米殊勲！祝20…

JIAS会員 TAGO 顎

# 第51回 欧米国際公募 フィンランド美術賞展(2019) 展覧会報告



左から) アラヤルヴィ市長コイブネン・ヴェサ氏、現地総指揮官を務めるアルキオ・エリナ女史、市政行政局長サーリ・バルム女史、アラヤルヴィ市議会議長アンティ・ヨエンス氏



ネリマルッカ・ムセオ



アルヴァ・アアルト建築のアラヤルヴィ市立図書館



ヴィラ・ヴァイノラ

## 「日本とフィンランド外交樹立100周年」記念すべき年、初の北欧フィンランドにて開催

開催市アラヤルヴィは、フィンランドを代表する画家“ネリマルッカ”生誕の地であり、画家・都市計画家・デザイナーとしても名を馳せ、20世紀を代表する世界的建築家“アルヴァ・アアルト”が幼少期をすごしたゆかりの地。今回、現代日本作家による多種多様な秀作を迎えるにあたり、市ならびに現地関係者は、アアルトが手掛け、ネリマルッカ作品を世界一多く收藏、常設展示するミュージアム「ネリマルッカ・ムセオ」、親族の別荘として築いた最適空間「ヴィラ・ヴァイノラ」、この地に暮らす人々が集う場所として建てられた「アラヤルヴィ市立図書館」の3会場を厳選。出品作家 169名 251作品は、現地関係者と共に吟味、調整した会場と展示構成により、華々しく展覧された。また、海外でも評価の高い国際作家とその作品として、2019年を代表する新エコールドパリ浮世・絵美術家協会(NEPU)公認作家

「NEPU 代表作家」3名の作品も同時に展示紹介された。本展は現地では「“和” Wa Kansainvälinen Japanilaisen taiteen näyttely Alajärvellä」のタイトルで会期前より各種現地メディアで大々的に報じられ、直前には展覧会開催を知らせる告知が街中に放たれた。市長自らSNS サイトで積極的に来場促進、会期中には学芸員によるギャラリートークなども催された。300km以上も離れた首都ヘルシンキをはじめ、ラップランド、タンペレ、ユバスキュラなどフィンランド全域から約5,000人が来場。現地より「現代日本アート界を担う日本作家らの技法と多種多彩な表現の広がりはフィンランドの人々を魅了し、称賛を博した。近隣の小学校では本展見学を授業の一環とし、約400名の生徒が日本の現代アートとカルチャーを学んだ。」と報告が届いた。



## “和” Wa Kansainvälinen Japanilaisen taiteen näyttely Alajärvellä 2019

2019.5.29～6.12 西オスミ州南ボファンマー県アラヤルヴィ市  
ネリマルッカ・ムセオ / ヴィラ・ヴァイノラ / アラヤルヴィ市立図書館

市内の小学校を訪問。全校生徒が「さくらさくら」を奏で代表団を歓迎



100名のこども達との交流



## TOPICS&gt;&gt; 開催市からの熱い要望により実現した文化交流イベント

日本とフィンランド外交樹立  
100周年記念イベントに認定！スピーチ合間には女の子4名による  
穏やかなフィンランド式の楽器演奏！

作家代表団として現地を来訪した43名は、数百名を数える来場者、現地メディア、美術関係者から熱烈な歓迎を受けた。レセプションでは、市長をはじめ現地関係者からの挨拶に、欧米/JIAS代表馬郡文平が御礼の辞を述べた。

## 「日本の現代アートに圧巻された」と語る寸評者たち

代表団ひとりひとりに丁寧な寸評を贈る、南オストロボニア地方美術館兼ネリマルッカ・ムセオ館長と本展の現地総指揮官アルキオ・エリナ女史、現地アーティストフォルステイ・エリナ女史。

作家代表団より、栗原光峰女史  
による書のデモンストレーション

6種全ての作品を書き終えた瞬間、初めて休感した“書道”に参列者の目は輝きを帯び、拍手喝采がわき起こった。

## 市内小学校でワークショップ型授業



市内のパーヴォラ小学校を訪問。特別授業として2時間にわたり3クラス100名程の生徒に「折り紙」「書」のワークショップ型授業を開催。中には本展現地関係者も混じり、真剣な面持ちで筆をもつ姿も垣間見れた。

## 作家代表団有志がおもてなし



会場内にあるカフェテリアでのお菓子と抹茶振舞いは、和気藹々とした雰囲気自然醸し出し、両国の異文化交流をより揺るぎないものとした。

## Report 第51回 欧米国際公募 フィンランド美術賞展と現地協賛イベントに赴いて

JIAS会員レポート



フィンランドは夏真っ盛り、白夜に近づく季節でした。車窓から森と湖の自然を楽しみ、会場に到着。歓迎式典では、市長さんなどによるパワフルなスピーチ、東京からのLIVE映像による大使館関係者からのご挨拶も。会場に訪れてくださった市民の皆様や、ワークショップでの純粋で一生懸命な小学生達、森の散策では市長さん達との交流もとても楽しかったです。アラヤルヴィの画家エリナ・スフォルステイさんのアトリエ訪問では、美しい自然の中で、大きな窓から景色を眺めながら制作されるとのこと。想像しただけで感動です。欧米の現地協賛イベントはいつも他にはない内容で、今回もリフレッシュさせていただきました。 JIAS会員 奥田 雪月湖

毎日の勤めから引退後の73歳から絵画を始め、欧米国際公募展にはコルシカ展より応募。知り合いもなく「アートの世界は変人ばかり」との先入観があった私には一人で現地参加するなどとてもできなかったが、シチリア展に思い切って参加してみた。そこで遭遇した新たな世界の素晴らしい人たちとの出会いが、スペイン展やフィンランド展に繋がった。アラヤルヴィでは、素朴で嘘のない自然の風景と人々の心に会うことができた。子供達の出迎え、市長をはじめとする皆さんの心遣いに対応で、すっかりフィンランドファンになってしまった。お土産に頂いた《ククサ》で毎日コーヒーを飲むのが楽しみになっている。ククサは洗わない方が良いとの忠告を守っている、内側が黒光りしはじめています。 JIAS会員 岸 甫



# 第32回 パリ国際サロン/ドローイングコンクール部門 (2019) 展覧会報告



「日仏友好160年」記念事業「ジャポニスム 2018：響きあう魂」のプログラムイベントとして公式認定



2017年イタリア美術賞展関係者のリオッタ氏と、サロン・ド・トルヌのケラン会長も駆けつけ、祝辞を贈った



バトリス・ド・ラ・ペリエール氏、副会長ロワリエ氏、本展会長ジャン・マリ・ザッキ氏、欧米/JIAS代表馬郡文平



出品作家代表 栗原光峰女史による書のデモンストレーション。本サロンでは久しぶりのデモ。踊り、流れるような所作と次々書きあがる作品に多くの熱い視線が注がれた



エスパス・コミヌヌ外観

## 30年以上続く、パリで毎年開催される唯一無二の日本人主催“サロン”

各会場にて行われたベルニサージュには、本サロン会長ジャン・マリ・ザッキ氏、副会長ロワリエ氏に加え、審査員兼講師者を担う仏美術雑誌ユニベール・デザール編集長バトリス・ド・ラ・ペリエール氏、特別来賓としてサロン・ド・トルヌより、シルヴィ・ケラン会長、デッサン・水彩部門長ブルジュノ・ソフィエ女史、写真部門長スナイデル・ローズ女史、ル・サロンより絵画部門長バザール・アラン氏ほか、欧州/JIASと理念を共有し、長年の親交で結ばれた数多くの第一線でフランス画壇を担う美術関係者、現地作家らが列席。開催に併せて来仏した出品作家代表団 33 名と合流し、親睦を深めた。

会中には、現地美術関係者の招待客、毎年の開催を心待ちにしている美術愛好家のみならず、雑誌やインターネット、SNS を通じて初めて足を運んだというパリジャンらも含め、例年を超える来場者を迎えた。会場では興味深く作品ひとつひとつを観覧。称賛や驚きの反応が多く寄せられ、“サロン”ならではの美術談義に夜遅くまで花を咲かせた。寸評会ではザッキ氏、ロワリエ氏、ド・ラ・ペリエール氏 3 人が共演。彼らならではのエスプリ、インスピレーション、アイデアが複層的に入り混じった今後の創作の糧となる厳しくも温かいメッセージが、現地を訪れた作家ひとりひとりに寸評が贈られた。



ドトーヌ作家のボボ氏とトバン女史も駆けつけた



関係者による重厚な寸評会



ギャラリー・デュ・マレでのヴェルニサージュ



ギャラリー顧客や大勢の愛好家が詰め掛けた



## TOPICS>> フランスを中心に活躍する本展関係者より

### 協賛画廊ギャラリー・デュ・マレ オーナー ルチアニ・ポール女史



表現の幅の広さと、日本独特の感性を宿す作品が多いと感じるから、このサロンの開催を心待ちにしている。更に今回は作品点数とより質の高い作品が増えたことに本当に驚いた。次回以降も更なる驚きに出会えるよう、作家の皆さまの健闘を心から願う。パリ3区マレより

### 本サロン副会長 エルベ・ロワリエ氏



作品を拝見し、このサロンが東洋と西洋の絆をますます深めていることをまた確信した。「パリ国際サロン」はこれからも世界のアート界をつなぎながら、誠意と一貫した理念をもち、ますます発展し、パリの芸術界に多くの有用なインスピレーションを与えることだろう。

### 「ユニバーサル・デザール」編集長 パトリス・ド・ラ・ペリエール氏



東洋と西洋がもつ各々のパワーが交じり合い生じる複雑性は、時に多大なエネルギーを放出する。そして、そこに集う作家らは皆、最も有効なメディア「アート」を通じ、自身もつ創造性を最大限表現することに努めている。このようなサロンは、質の高いアーティストに出会うために必要不可欠な存在なのである。

### 本サロン会長 ジャン・マリ・ザッキ氏



1973年から続く欧米/JIAS。創立者馬郡俊文との1986年ル・サロン会場グラン・パレでの衝撃的な出会いから日本とフランスの芸術文化交流の展望をひらくため、かつてのフランス芸術協会会長 画家アルノー・ドートリー氏、フランス画壇の巨匠ポール・アンビーユ氏、そして、今日のこの良き日に共に分かちあつたロワリエ氏、ド・ラ・ペリエール氏らと共に数々のプロジェクトについて語らしてきた。そして、そのひとつであった本展は「パリ国際サロン」として結実し32回を迎えた。これは既にひとつの歴史といっても過言ではない。今回、このような大勢の来場者を迎えることができ、たいへん感無量である。

## Report 第32回パリ国際サロン 現地イベントに参加して

JIAS会員レポート

地下鉄フィユ・デュ・カルヴェール下車、階段を上がり、どっちだったけ?と迷ったら画材店Rougier & Pleを目印に曲がるとすぐにエスパス・コミンスが見えてくる。以前、サーカス興行も使用していた(?)という会場は、天井が高く、地下は、石造り。建物に入るだけでもわくわくする。そんな中に自分の作品が展示され、フランス語で寸評が貰える。どこか現実でないような不思議な気持ちになった。ただ好きで続けてきた絵の制作活動。人生も折り返しに来た今になって初めて一人で飛行機に乗ってパリへ...そこから次々に新しい体験が続いている。

JIAS会員 小畑 敦子





## 来場者の熱気に満ち溢れた広大な会場に、今年も4つのサロンが集結

澄んだ2月の空の下、パリを代表する建造物<グラン・パレ>には開場前より長蛇の列ができていた。18時を迎えるころにはようやく緩んだものの閉場まで途切れることはなく、開催を心待ちにしていた出品作家や美術関係者ら約12,000人が押し寄せた。現在、ル・サロン名誉会長であり、19歳ではじめてル・サロンに入選してから半世紀以上も本展で作品を発表し続けるジャン・マリ・ザッキ氏は、日本作家ら15名の作家代表団に会場内を案内しながら、時に立ち止まり展示作品を解説、ル・サロンを担ってきた歴代会長や重鎮らを次々に紹介した。代表団は、初めて会う現地作家、関係者らとともにシャンパンで開会を祝い、展示作品前で記念撮影をするなど、親交を温めた。氏は欧米/JIASを介して出品した日本作家作品全てを既に鑑賞。

代表団の出品作家らには、ひとりひとり作品を前に厳しくも温かい熱のこもった寸評を贈った。さらに、惜しくも共に開催を祝えなかった出品作家には「まずは、ようこそル・サロンへ。入選おめでとう! この入選は我々作家にとって大きな自信のひとつ。大切にして欲しい。いずれの作品についても、描こうとしたものを作家自身の感受性でしっかりと解釈され、見事にオリジナリティ溢れる芸術として昇華された。今後のル・サロンを担うような創作を続けるよう望む」とメッセージを贈った。後日ル・サロン事務局より「会期中の来場者は約35,000人超、高水準な審査をクリアした世界中からの出品作家600名による逸品が彼らを魅了した」と発表された。



陽が沈むとグラン・パレ外観はトリコロールカラーにライトアップされ同時にライトに照らし出された会場内は作品とともに、まるで空中に浮かびあがったかのような幻想的な様子をみせた



本展開催をうけ、ドゥラルフ会長より「ル・サロン」、年に一度のわたしたちの約束の場所。疑ることない純粋な現代アートのコレクション。伝統と個性そして誠実さへの敬意がわたしたちのサロンの礎となっている。一部の限りある境遇とは異なり、ここは、全てのアーティストに開かれた場所であると自負している。



## Report ル・サロン2019 現地に赴いて

JIAS会員レポート

この年よりパリ国際サロンがル・サロンと同じ会期に開催されるという事もあって、現地に赴きました。会場グラン・パレの雰囲気は、サロン・ドートーヌの長く伸びた白いバビリオン雰囲気とは違って、何か気高さを誇っているかのように感じました。今回のル・サロンには、風景画と人物画の二点を応募。私としては入選するとすれば人物画の方だと思っていたのですが結果は逆。「なんで?」という疑問と共に、人物画には何が足りなかったのか、風景画はどこが評価されたのか、そういう事も考えながら作品を鑑賞し、沢山の刺激をもらいました。あとで風景画の「人影のない駅」がメンション\*を受賞したと聞いてびっくり。会場で寸評していただいたザッキ氏はじめ関係者に感謝申し上げます。

JIAS会員 瀬野 清



\*メンション:ル・サロン展において、今後の入賞(金・銀・銅・優秀賞)候補として、フランス芸術家協会ル・サロン事務局が認識した旨を表す奨励賞的認証

次回サロン・ドトーン応募締切は2020年2月12日(水)まで!



開場と同時に作家関係者、芸術愛好家、メディア、ギャラリー関係者が押し寄せ、場内はたちまち熱気に溢れた



体調不良により急遽欠席されたシルヴィ・クラン会長に代わりセヴェラク・カトリーヌ副会長がスピーチを代読。大勢の来場者、関係者に謝意を表し、本展開催の祝辞を述べた



世界展寸評会に携ったルグラン氏との再会



パリ日本文化会館館長の杉浦勉氏も日本人作品を丁寧に鑑賞



会場受付では日本・フランス現代美術世界展の様子が上映された

## 20世紀を彩った革新的芸術家たちの精神を現代に継ぐ

シャンゼリゼ＝クレマンソー駅からコンコルド駅まで伸びる広大なパビリオン。具象、抽象、写真、立体、ミクストメディア、環境アート、デッサン、版画、建築、デジタル部門まで、いずれも堅実なデッサン、確かな技術に支えられ、厳正な審査を通過した800点超の作品が多彩な個性を開花させた。開場に先駆け、20カ国以上の在仏大使館より特別来賓が内覧。パリ日本文化会館から今年も杉浦勉館長が来場され、欧米スタッフの案内にて作品ひとつひとつを興味深く鑑賞された。また、展示ブースの其処彼処では、経験豊かな重鎮作家と若い有望作家が、国籍、年代を問わず、世界共通テーマである「芸術」について尽きることなく議論し、フランスの誇る「サ

ロン」文化の健在を象徴する様子が会期を通して見られた。会期を通じて絵画抽象部門長ルグランドウニ氏、デッサン部門長ブルジュノ・ソフィ女史、絵画部門長ジャン・ベルナル・プシュ氏、同ルフォール・ティエリ氏ほか会員コンヴナン氏、同ミシェル・トパン女史ら現代フランス画壇を支える重鎮作家らも日本作品を鑑賞、本年度の日本作品の質の高さを賞賛した。また、ル・サロン名誉会長ジャン・マリ・ザッキ氏もベルニサーージュに駆けつけ、日本作品をひとつひとつを鑑賞。長年、JIAS/ 欧米関連展を通し日本作家作品に精通する氏が訪れた現地来場者に熱心に解説する場面もあった。

### Report 憧れのサロン・ドトーン2019 現地に赴いて

JIAS会員レポート

パリに到着した2日後、サロン・ドトーンのオープニングに参加。今まで目にしたことのないような、ダイナミックな構図や色彩で描かれた作品は、素晴らしいものでした。しばらくすると、私の作品が見えてきました。当然のように、他の作品と見比べてしまい、私の作品の課題が、はっきりとわかりました。また、今年は『サロン・ドトーン記念図録』発行の年にあたり、一足先に現物を見る事ができました。憧れのピカソ、セザンヌ、佐伯祐三、藤田嗣治と共に、私や欧米/JIASを介して過去一緒に出品した作家の皆さんの名前が、掲載されたことも、素晴らしい記念になりました。

JIAS会員 宮向井 勇



## 2020年活動スケジュール

### JIAS海外活動

※予定事項は変更になる場合もございます

- 第33回パリ国際サロン (JIAS 協賛)  
於：(パリ市) ギャラリー・デュ・マレ、  
エスパス・コミンヌ  
会期：2020年2月6日(木)~2月9日(日)
- 第52回 欧米国際公募 クロアチア美術賞展 (JIAS 共催)  
於：クロアチア ネットヴァ郡 ドップロヴニク市  
ラザレティ  
会期：2020年5月22日(金)~6月7日(日) 予定

### ＜その他 JIAS 関連活動＞

- ル・サロン 2020 (主催：フランス芸術家協会)  
於：パリ市 グラン・パレ  
会期：2020年2月11日(火)~16日(日) 予定  
※ル・サロン 2021 (国内応募締切：2020/2/12 迄)
- サロン・ドトワ 2020 (主催：サロン・ドトワ協会)  
於：パリ市 シャンゼリゼ通り 特設会場  
会期：2020年10月中旬頃予定  
※サロン・ドトワ 2020 (国内応募締切：2020/2/12 迄)
- NEPU 活動  
NEPU 代表作家の国内外広報、海外での講演会活動

### JIAS国内活動

- 第21回日本・フランス現代美術世界展 (JIAS 主催)  
於：東京 六本木 国立新美術館 3A・3B 展示室  
会期：2020年8月5日(水)~8月16日(日)  
公募締切：2020年5月11日(月) 予定
- JIAS2020年総会  
於：東京 六本木 国立新美術館内予定  
会期：2020年8月13日(木) 予定
- JIAS/ 欧州美術クラブホームページ運営・管理ほか

## 会員個々の活動紹介



JIAS 機関紙がホームページから閲覧可能となりました

JIAS 会員の個展情報などはホームページにてお知らせしています。掲載をご希望される方は、会期の3週間前には事務局へお知らせください。

### 会員からのお便り

ザッキ先生の文化勲章受賞おめでとうございます。関係作家と JIAS 会員にとって大きな喜びであります。人生の大半を斬新で魅力あふれる欧米 / JIAS の企画によって育ててもらい感謝します。かつて、沖縄の伝統工芸への深い関心と思いやりが「パリサロン特別展」として10人作家15点の作品を「沖縄の花」として紹介していただきました。後に人間国宝や大学での指導者としてたくさんの工芸家を育てることになりました。新しい馬郡文平 JIAS 代表と、まさに欧米会長の努力の下でどんどん新しい企画も生まれ、ひきつがれる文化交流、国と国との和が広がりが保たれている事がうれいす。(沖繩県・Uさま)

★機関紙へのご協力お待ちしております。ご意見・感想・取り上げて欲しい企画など、お気軽にお寄せください。

### 編集後記

都内でのオリンピック開催、はじめての会場増設など、慣れない事にドキドキもありますが、成功目指してスタッフ一同頑張りたいです。(事務局・T)

●「年を重ねると1年が短く感じる」と誰しも思ったことあるはず。とある書物に、認知科学的には、身体が元気で代謝が活発だと実際の時間よりも心理的な時間が速くなるからとあった。では、私は日々2019年、元気だったのか？何かが違う。何か腑に落ちない。その書物をもう少し掘り下げてみると大人と子供を対比した場合、日常生活以外の特別な出来事が多いと、時間は長く感じられるとあった。これだ！日々の事柄を特別な出来事として捉えられてなかった1年を反省し、2020年を「あー長い1年だった」と締めくくりたい。(事務局・A)



●遠い未来のように感じていた2020年という響きが、いよいよ現実となつてしまい、なんだか信じられないような不思議な気持ちの年明けです。記念すべきこの年が、JIAS 会員皆様にとっても良き思い出に残る様、さらに印象深い展覧会を目指し、スタッフ一同奮起しています。

## チャリティー・プロジェクト報告

陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈る

東日本大震災被災地支援チャリティー「陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈るプロジェクト」の募金箱を会場入口に設置。寄せられた義援金64,750円にて購入したスケッチブック750冊が、陸前高田市保育協会を通じて同市保育園に贈られました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後も皆様のお力をお待ちしております。



今年度は陸前高田市の子ども達に絵の好きな子ども達へ画材を贈るプロジェクトの募金箱を会場入口に設置。寄せられた義援金64,750円にて購入したスケッチブック750冊が、陸前高田市保育協会を通じて同市保育園に贈られました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後も皆様のお力をお待ちしております。



陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈るプロジェクトの募金箱を会場入口に設置。寄せられた義援金64,750円にて購入したスケッチブック750冊が、陸前高田市保育協会を通じて同市保育園に贈られました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後も皆様のお力をお待ちしております。



陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈るプロジェクトの募金箱を会場入口に設置。寄せられた義援金64,750円にて購入したスケッチブック750冊が、陸前高田市保育協会を通じて同市保育園に贈られました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後も皆様のお力をお待ちしております。

### 【陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を送るプロジェクト】

- 銀行振込・郵便振替・現金書留にて募付けております
- ★銀行振込：●みずほ銀行 日本橋支店  
① 1634027 口座名 欧州美術クラブ  
●三菱東京UFJ銀行 日本橋支店  
② 0128429 口座名 欧州美術クラブ
  - ★郵便振替：記号 10100 (番号) 77876481 欧州美術クラブ
  - ★現金書留：欧州美術クラブ「陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を送るプロジェクト」係宛



## JIASとは

JIAS 日本国際美術家協会 (以下 JIAS) とは展覧会のみならず日本・世界芸術界を盛り上げるべく、会員ならびに会の活動に協賛する会員外の作家と協業しながら展覧会などへの出品活動に動かし「作家の、作家による、作家のための美術家協会」です。主催展覧会日本・フランス現代美術世界展には会員に限らずご応募いただけます。(ご応募に際し、協会への加入強制など一切いたしません)



JIAS 協会のシンボルである「ロゴマーク(上記)」は故バロン・ルヌアール・氏が、世界の画壇と対等に活動し共に画壇を盛り上げる JIAS の理念に敬意を表しデザイン、1997年に贈呈されたものです。

\*Baron-Renouard (1918-2009) フランスにおける現代抽象作家の第一人者。JIAS 名誉顧問、サロン・ドトワ絵画部門長はじめ、ユネスコ国立造形美術評議会永世会長として芸術の物質的・精神的保護に携わる。国立近代美術館(パリ、東京)などに作品所蔵

## 資料請求

ご出品について  
本誌に掲載の各種公募展へご応募・出品をご希望の方は、ホームページまたはお電話等にて、お気軽にご請求ください(無料)。



無料資料請求!